

## 一九八八年出土の木簡

### 概要

本号には、昨年度研究集会で一九八八年木簡出土遺跡として報告されたもののほぼ全と、その後八八年度末までに新たに木簡を出土したことが知られた遺跡など、四〇遺跡について、その概要と主な木簡の釈文・内容を紹介することができた。発掘調査などで多忙な中、貴重な報告を寄せられた関係機関並びに発掘調査担当者・報告執筆者の方々に厚くお礼を申し上げるとともに、今後とも変わらぬご協力をお願いする次第である。

本号に掲載した木簡出土遺跡及び出土木簡の点数については別表の通りである。木簡を出土した四〇遺跡のうち、古代の木簡を出土した遺跡は二七遺跡で過半数を占めるが、時代的には古代から近世にまで及び、さらに本年度は近代の木簡まで出土している。地域的には、全国各地の、また多種多様な性格をもつ遺跡から出土している点は、本年も例年と同様である。しかし、このうちの四遺跡は一九八七年以前に木簡を出土していた遺跡であり、本年度に木簡を出

土したのは厳密には三六遺跡となり、木簡出土遺跡数の微減が指摘された昨年度と同数になった。ただ、本年度木簡出土遺跡に限っても、本年初めて木簡を出土した遺跡が一六遺跡を数える点からすると、木簡出土遺跡数と出土木簡点数は増大の傾向にあることはまちがいない。また従来より継続して木簡が出土していた平城宮・京跡では、質・量ともに空前絶後といってよい程の木簡が出土しており、今後の研究の進展が大いに期待される。

本年度出土の木簡を概観して、最も注目を惹くのが、先述の平城京跡出土の木簡である。一つは「長屋王家木簡」と仮称される木簡群であり、もうひとつは長屋王邸の北、二条大路路肩の東西溝から出土した木簡である。「長屋王家木簡」は「長屋親王宮」と記された木簡が大きな話題を呼んだが、出土状況が邸内の、一括投棄と判断される遺構から出土した点、年紀が和銅四年・靈龜二年と限定される点など、まず資料としての良質性に注目される。その内容は長屋王家の家政に関するものを主とし、家政機関の名称、日々の食料給付の状況、長屋王家の領地の所在地とそこからの邸内への物資の搬入のあり方等々、従来は律令に規定された国家的給付(封戸、位田・

木簡出土遺跡一覧

| 遺 跡 名                | 所 在 地    | 点 数     | 木簡の年代          | 遺跡の性格        |
|----------------------|----------|---------|----------------|--------------|
| 平城京跡                 |          |         | 古 代            | 都 城          |
| 左京三条二坊               | 奈良県奈良市   | 約38,000 |                |              |
| 左京二条二坊十一・十四坪坪境小路跡    | "        | 31      |                |              |
| 左京二条四坊二坪             | "        | 1       |                |              |
| 東大寺境内                | "        | 226     | "              | 寺 院          |
| 藤原宮・京跡               |          |         | "              | 宮殿・官衙<br>・都城 |
| 内裏東外郭地域              | 奈良県橿原市   | 10      |                |              |
| 宮西南部地域               | "        | 136     |                |              |
| 西方官衙地域               | "        | 2       |                |              |
| 右京七条四坊               | "        | 4       |                |              |
| 長岡宮・京跡               |          |         | "              | 宮殿・官衙<br>・都城 |
| 東辺官衙・東一坊大路           | 京都府向日市   | 1       |                |              |
| 東辺官衙・左京一条大路          | "        | 1       |                |              |
| 二条大路・東二坊大路<br>交差点    | "        | 1       |                |              |
| 左京二条二坊六町             | "        | 8       |                |              |
| 左京四条三坊四町             | 京都市伏見区   | 2       |                |              |
| ※ 嵯峨院跡<br>(史跡大覚寺御所跡) | 京都市右京区   | 21      | "              | 宮殿・寺院        |
| 大坂城跡                 | 大阪市中央区   | 53      | 近 世            | 城郭・都市        |
| ※ 東郷遺跡               | 大阪府八尾市   | 1       | 古 代            | 集 落          |
| 吉田南遺跡                | 神戸市・明石市  | 1       | 中 世            | 集 落          |
| ※○小犬丸遺跡              | 兵庫県龍野市   | 3       | 古 代            | 官 衙          |
| ※○姫路城跡               |          |         |                | 城 郭          |
| 武家屋敷跡                | 兵庫県姫路市   | 7       | 近世・近代          |              |
| 東部中濠                 | "        | 2       | 近 世            |              |
| ※ 玉手遺跡               | "        | 1       | 中 世            | 集 落          |
| ※ 袴狭遺跡               | 兵庫県出石町   | 8       | 古 代            | 祭 祀          |
| ※ 瀬名遺跡               | 静岡県静岡市   | 1       | "              | 水田・集落        |
| ※ 池ヶ谷遺跡              | "        | 1       | "              | 水 田 跡        |
| ※ 山の神遺跡              | 静岡県浜松市   | 2       | 古代末～中<br>世     | 集 落          |
| ※ 居村B遺跡              | 神奈川県茅ヶ崎市 | 2       | 古 代            | 生 産 跡        |
| 今小路西遺跡               | 神奈川県鎌倉市  | 1       | 中 世            | 都 市          |
| ※ 中里遺跡               | 東京都北区    | 100     | 古 代 (1)<br>近 世 | 官衙・集落        |
| ※ 中江田本郷遺跡            | 群馬県新田町   | 1       | 近 世            | 集 落          |
| ※ 高溝遺跡               | 滋賀県近江町   | 1       | 古 代            | "            |
| ※ 狐塚遺跡               | 滋賀県近江町   | 1       | "              | "            |
| 仙台城二の丸跡<br>(第五地点)    | 宮城県仙台市   | 23      | 近 世            | 城 郭          |
| ※ 熊野田遺跡              | 山形県酒田市   | 1       | 古 代            | 集 落          |
| 一乗谷朝倉氏遺跡             | 福井県福井市   | 2       | 中 世            | 城 館          |
| ※ 能登国分寺跡             | 石川県七尾市   | 1       | 古 代            | 寺 院          |

# 1988年出土の木簡

|           |        |   |   |   |   |   |
|-----------|--------|---|---|---|---|---|
| ※ 三小牛ハバ遺跡 | 石川県金沢市 | 3 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| ※ 発久遺跡    | 新潟県笹神村 | 6 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 草戸千軒町遺跡   | 広島県福山市 | 3 | 中 | 世 | 集 | 落 |
| 尾道遺跡      | 広島県尾道市 | 1 | 中 | 世 | 〃 | 〃 |
| ※ 紺屋町遺跡   | 香川県高松市 | ? | 近 | 世 | 都 | 市 |
| ※ 〇下川津遺跡  | 香川県坂出市 | 5 | 古 | 代 | 集 | 落 |

※は木簡新出土遺跡、〇は1987年以前出土遺跡

職田、帳内・資人等）の数的側面しかわからなかった、奈良時代の貴族の日常生活を解明する道が開けた点で、その史料価値の高さは計り知れないものがある。また二条大路路肩の東西溝出土のものは、年紀が天平三〜一〇年と限定され、やはり良質の資料である。内容的には、これまでの平城宮跡の発掘で出土した木簡との類似性が指摘されており、律令国家中枢部での政務運営のあり方の理解、贄関係の木簡を始めとする貢進物付札の分析などに新たな考察材料を呈するものと思われ、質・量ともに「長屋王家木簡」と遜色のないものと言えよう。これらの木簡の検討が進むことで、古代史研究に益するところは大きく、古代史の史料に占める木簡の重要性は今後ますます大きくなるものと予想される。

本年は平城京以外の古代の遺跡においても多くの木簡が出土している。藤原宮跡からは「評」の木簡や薬物に関する木簡が出土し、後者は宮西南部地域の官衙的性格を

究明する上で重要な材料となろう。その他、大きな話題を呼んだ東大寺境内出土の大仏造営関係の木簡、長岡宮・京跡や嵯峨院跡出土の木簡など、興味深いものが多数ある。また本年は古代にあった「地方」であった地域からも多種多様な木簡が出土しているのが一つの特色である。小犬丸遺跡では、木簡からこの遺跡が布勢駅家跡であることが明らかになった。皇后宮の出挙稲収取に関わる木簡（袴狭遺跡）、人夫徴収（瀬名遺跡）や放生会（居村B遺跡）に関するもの、国衙より下の機関に具注暦が伝わっていたことが推定される木簡（発久遺跡）など、地方における律令制度の運用を解明する上で貴重な史料も呈されている。また能登国分寺跡では、一昨年の福井・田名遺跡に続いて、地方において貢進物付札が出土しており、その意味の検討が必要となろう。なお、下川津遺跡からは七世紀後半と推定される木簡が出土した。地方における八世紀以前の木簡出土例として注目したい。その他、呪符木簡は二遺跡から出土している。

中世の木簡は、例年のごとく、呪符が大多数を占めている。呪符は中世人の精神生活を解明していく上で重要であるが、文面にはその内容を端的に示す言葉は記されておらず、符録や呪句・呪語によって象徴的に表現されているにとどまる。したがってこれらを解説し、中世の人々の精神生活を理解するには、木簡だけでなく、相伴出土遺物、さらには民俗資料をも丹念に分析していく必要がある。ただ現在のところ本会にはまだ民俗学や中世の精神史を専攻される

研究者の方々の入会は少なく、古代のものも含めて、このような呪符木簡は今後とも報告事例が増加するものと予想されるので、この方面の方々にもぜひ入会をお願いしたい。

近世木簡出土遺跡として、本号に掲載したのは七遺跡である。大坂城跡、姫路城跡、仙台城二の丸跡、高松城下紺屋町遺跡など、城郭・都市出土のものが過半数を占めるのは例年と同様であるが、本年は集落跡からの出土例を見た点が注目される。中里遺跡の年貢米収納に関わる木簡、中江田本郷遺跡の呪符など、近世の村の人々の暮らしぶりを木簡から明らかにすることも可能になるのではあるまいか。その意味では、近世史専攻の方々にも本会への入会をお願いしたいものである。

本年は近代の木簡も出土した。姫路城跡の東部中濠からの明治時代と推定される木簡であり、木簡研究はついに近・現代までも視野に入れることが必要になったのである。

なお、本年度あるいは一九八七年以前に木簡が出土したことがわかっている遺跡の中で、種々の事情から今回収録できなかった出土例として、兵庫県赤穂城本丸跡・石川県横江荘荘家跡・茨城県堀ノ内遺跡がある。また本誌に掲載漏れとなっている木簡出土遺跡も多数あるものと思われる。本会では、このような遺跡についても今後とも可能な限り増補していきたいと考えているので、関係者ならびに会員各位にご協力をお願いする次第である。

(森 公章)

## 凡 例

一、以下の原稿は各木簡出土地の発掘機関・担当者に依頼して、執筆していただいたものであるが、体裁および積文の記載形式等については編集担当の責任において調整した。

一、原稿の配列はほぼ奈良時代の五畿七道の順序に準じた。

一、積文の漢字はおおむね現行常用字体に改めたが、「實」「證」「龍」「廣」「盡」「應」等については正字体を使用し、異体字は「井」「井」「季」「𠂔」等についてのみ使用した。

一、積文下段のアラビア数字は木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位はミリメートル)。欠損している場合は括弧つきで示した。その下の三桁の数字は型式番号を示す。またそれぞれの発掘機関での木簡の通し番号は最下段に示した。

一、積文に加えた符号は次の通りである(六頁第1図参照)。

「」 木簡の上端ならびに下端が原形をとどめていることを示す。

< 木簡の上端・下端に切り込みのあることを示す。

ミミ 抹消した文字であるが、字画のあきらかな場合に限り原字の左傍に付した。